東京ジャーミイ金曜日のホタバ
2010 年 10 月 22 日

生活に信仰を反映させる

親愛なるムスリムの皆様。

信仰は、単に言葉や説明で「信じました」ということで実現される状態ではありません。それは、それ自体が一つの生き方なのです。信じた、という人は神の御前において、何かを誓い、証書に署名し、それを実践することを保障する商人に似ています。私達の崇高な書・クルアーンは多くの章句でで信仰について詳しい知識を与え、信仰している、という信者達をも、改めて信仰へと導いているのです。アッラーは信仰し、その信仰を正しい形で実践した者に天国を約束され、信仰しない者には悲痛な罰によって警告を与えられているのです。

親愛なるムスリムの皆様。

人をアッラーの位階において誉れある存在となす者は、彼の信仰であり、アッラーとの強い結びつきです。現世は来世の為の耕作地なのです。一微塵の重さでも、善を行った者はそれを見る。一微塵の重さでも、悪を行った者はそれを見る。（地震章第 7 - 8 節）と述べられているのです。

親愛なるムスリムの皆様。

信仰の条件を果たしている人は、一時的なものに過ぎない世界の恵みの為に信仰や信仰のきまりを実現化することを容易に放棄することはありません。アッラーへの近いを思い出し、それを周囲にも反映させます。配偶者や子供達、隣人、親戚、そして親しい人々と良好な関係を築きます。人々や周囲に存在する全てに対し、アッラーの信仰するしもべとしてふさわしい態度で接します。何かを行った際、「これは信者にとってふさわしいものか？」と問わられば、困難なく肯定的な返事ができるような形で生きるのです。飲酒や賭博、売買春、窃盗、偽り、偽造といった事柄からははるかに遠ざかっているのです。こういった事柄は偽信者や罪深いい人々、シャイターンの道を行く人々にふさわしいものであることを認識しています。正しい形で信仰する人は、全ての行動がもれなく記録されていること、いつの日かそれらが目の前に広げられ、その勘定が問われることを忘れることがありません。そして何よりも大切なことは、預言者ムハンマドがおっしゃられたように、「信者は大きな罪を犯すことを、火を恐れるように恐れる」ことです。真の信仰はこれを必要とするのです。

親愛なるムスリムの皆様。

決して忘れてはいけないことは、この世界において私達の身にに起こるあらゆる問題や苦しみは、忍耐によって乗り越えなければならない試練なのです。そしてこの世界で私達が追求した全ての恵みや豊かさは、それぞれがはかない気晴らしのようなものです。

全てが一時的ではかないものなのです。不滅であるのは、無限の崇高さと気前のよさの持ち主であられるアッラーのみです。私達ムスリムにとってアッラーを信じること、そのご満悦を得ることは全てに優先するものなのです。神が私達の信仰を強固なものとしてくださいますように。私達の振舞いや徳をよいものとしてくださいますように。